



みなおと

増刊号

秋田大学教育文化学部・教育学研究科情報誌 2020. 5.13

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆みなおと増刊1号 2020年4月13日☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

大学生活について

教育文化学部長 佐藤修司

こども発達コース・教職実践専攻教員

新入生の皆さん、在学生の皆さん、2020年度は異例の幕開けとなりましたが、後ろ向きにばかりとらえず、新たな挑戦と受け止め、前向きに進みましょう。遠隔授業、ICT活用も、これまでの日本の教育の弱点とされてきたところで、高い学力で有名な秋田も例外ではありません。これを機会に、ICT機器を活用した、秋田の探究型授業を深化させたいところです。

夜明けは最も暗いともいいます。トンネルの中にいると、いつ外に出られるのか不安になります。でも、そこにとどまっていたのでは決して出口にはたどり着けません。できないことを探すのではなく、できることを探して、進みましょう。

みなさんは決して一人ではありません。いろんな形でつながることができます。本学部・研究科の教職員は、一体となって皆さんを支えます。皆さんも、助けられる存在から、危機を乗り越える主体として、ぜひ私達の取り組みの一員に加わってください。若い人たちこそ、私達の希望です。

不安や悩みは共有することで半減されていきます。喜びや楽しさは共有することで倍加します。学生同士でも助け合って、まだ見ぬ世界を切り拓きましょう。



*みなおと増刊号は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、入学式、新入生・在学生ガイダンスが中止され、学生には大学構内への立ち入りが制限・禁止となり、自宅待機と健康観察記録が求められ、5月11日からの遠隔授業による授業開始となって、精神的にも経済的にも困難な状況に置かれている新入生、在学生のみなさんにエールを送ろうと企画発行されたものです。新入生のアネットへの登録により、配信が可能になったタイミングで開始しました。そんな時代もあったね、と思い出せるような日々の到来を待ちたいところです。

学校教育課程の新生・在学生の皆さま

学校教育課程主任 遠藤敏明
教育実践コース教員

本来ならば、新生や在校生ガイダンスで皆さんの元気な姿を拝見し、お話することができたのですが、本年度は、このような事態になり、残念で申し訳ない事と思っております。

私の担当は美術です。美術というと絵画や彫刻と思うかもしれませんが、私は「工芸」が専門です。高等学校の芸術科目のなかで「工芸」という授業科目がありますが、あまり馴染みがないかもしれません。小学校「図画工作」や中学校「美術」の中で、工作や工芸のことだと思ってください。

明治時代に、スウェーデンで行われていた「スロイド教育」を日本人が学び、その後、日本で「手工科」という教科として取り入れられました。これが日本の工作教育の始まりです。私は日本の大学を卒業した後、スウェーデンの大学に留学しました。日本やスウェーデンで学んだことを、ぜひ皆さんにお伝えしたいと思っています。

学生だった私は、スウェーデンに留学してすぐに、授業も始まらず、友人も知人もまったくなくて、ホテルやユースホステルを利用しなくてはなりませんでした。もちろん不安でした。そこで大学のある町の野山を歩いたり、図書館に行って本を読んだりして時間を過ごしました。そのような経験からでしょうか、ここ秋田でも太平山を眺めると不思議と落ち着くのです。太平山は本当に美しい山ですので、ぜひ皆さんにも眺めていただきたいです。スウェーデンでの経験、工作・工芸について『木でつくろう 手でつくろう』（小峰書店）という児童向けの本を書きました。秋田の市立図書館や県立図書館にありますので、図書館に行く機会があれば、興味ある方はぜひご一読ください。工芸は、実際に材料に触れて、道具を使い、ものをつくることから学ぶので、ネットや文書で遠くからお伝えすることに限りがありますが、いずれお目にかかる時を楽しみにしております。



サークルに入った方がいいのか？

例年だとこの時期、大学のさまざまなサークルや部などが新入生の勧誘活動を行い、サークルに入ろうか、どのサークルにしようか、と迷う新入生たちも多くいます（部の方が練習など本格的で厳しいようです）。見学に行って、当初考えていなかったサークルに入った先輩たちもかなりいるようです。サークルの雰囲気は、実際に見て、活動してみないとわからないところもあります。年によってメンバーが変わるため、かなり変わることもあるようです。大学の「公認団体」になるためには10人以上の学生と継続的な活動実績が求められるので、人数の少ないところは勧誘活動を必死に行わないと公認団体ではなくなってしまいます。先輩の卒業とともに消滅するところも出てきます。大学の公認団体は『キャンパスライフ』に出ています。

サークルに入った方がいいのか？ これはどちらでもかまいません。ですが、大学での「授業（学業）以外」の活動が、就職活動や公務員試験で書かされたり、聞かれることがよくあります。そのときに困らないようにしておくことも考えておきましょう。ボランティアなどの活動でも大丈夫で、サークルに入っていなかった先輩たちも、就職し、公務員試験に合格していつているので、サークルに入らない人も心配しないで、ただし何か「ネタ」を作っていけるようにしてもらえるといいと思います。「ネタ」づくりにやったことから、いろいろなことを見つけたり、経験できた先輩も多くいます。たとえば卒論のテーマなど。

自分のやりたかったサークルがない、ということもあります。その場合は自分で作ることもできます。同好会からはじめて、継続的に活動し、人を集めて10名以上になると、公認団体として認められる可能性があります。むかし私のゼミ生でボクシング・サークルを作った学生がいました。私は

地域文化学科主任 和泉 浩

地域社会コース教員

まったくボクシングをやったことがないのですが、その学生の頼みで数年間、ボクシング・サークルの顧問をやったこともあります。ところで、スポーツで人を殴ることは、なぜ犯罪にならないのか？ルールがあればいいのか？合意があればいいのか？大学ではこんなことも考えたり、研究のテーマになったりもします。



でも、さらに大切なことは、親しい人と連絡をとることです。このご時世なので、みんなで集まってはしゃぐことはできないけれど、連絡を取ることができます。もっと良いのは、お互いの顔を見て話すことです。最近はLineやZOOM, Skypeなどを使えば比較的簡単にできます。「えー？、相手の時間を奪うことにならないかな」なんて考える必要はありません。どうせ、みんな暇なのです。毎日計画を立てて、勉強している人なんか、まあいいでしょう（いたらごめんなさい）。きっと付き

誰かと繋がること、まずはここから始めてみませんか？



「閉じこもり生活」の過ごし方（前編）

学生のみなさん、本来なら心がわき立つ春にいきなりの自宅待機を強いられ、ストレスを感じている人もいるでしょう。私は認知心理学が専門ですが、人間は対象が変化して（例えば、動いたり、形を変えたり、明るさや色の見え方が変わったりして）初めて対象がどうなっているのかが知覚できます。面白いのは、対象が全く動かず変化しないときでも、人は自身の眼球を細かく高速に動かすことで、相対的に対象の視え方を変化させています（「固視微動」と言います）。例えば、試しに白いメモ用紙に小さな黒円を描いて、白いテーブルの上に置きます。テーブルが白でなければメモ用紙を白い台紙の上に置きます。そして、片目をつぶって自分の頭と眼球が決して動かないようにして、黒円をじっと見つめます。するとメモ用紙の縁がぼやけてテーブルと同化し、いずれ見えなくなります。一点を凝視することで固視微動が抑えられ、対象の輪郭が知覚できなくなるのです。このように、環境の変化は人間が世界を理解するために欠かせないことですから、逆に変化に乏しい環境そのものがストレス因になります。

それを回避する心得として、フランスの AFP 通信が面白い記事を書せていました。「閉じこもり生活のアドバイス、宇宙飛行士から潜水艦艦長まで」という見出しで、各界のエキスパートがアドバイスをしています。最初は、国際宇宙ステーションで約 1 年間を過ごした元宇宙飛行士スコット・ケリー氏。「いつになったら終わるのか分からない中で、予想通りになるものが必要だ。宇宙で 1 年間暮らすのと同じようなことだ。とにかく日課を決めること。決まった時間に起き、決まった時間に眠ること。運動を日課とすることも必要だ。外に出られないなら、窓を開け、外に顔を出す。それを

心理教育実践専攻長 中野 良樹

心理実践コース・心理教育実践専攻教員

日課の一部とすることだ」。あれ？むしろ変わらない日課の大切さを強調していますね。（後編につづく）



ZOOMで友達とつながろう！

教育文化学部の皆さん、教職大学院のそして理数教育コースの林信太郎です。これからの授業では ZOOM というアプリを使う機会が多くなりそうです。ZOOM は勉強に使うだけではなく、様々な使い道があります。ZOOM を使って会議をする人はもちろんいます。でも、ZOOM を使って宴会をする人が増えているという報道がありました。新型コロナウイルスに感染する心配なく、楽しめるからですが、本当に楽しいのか？こんな疑問を持ちつつために理数教育コースの教員で宴会を開催しました。もこれがもうたいへん楽しいのです。自宅からのアクセスですので、奥様が登場したり、赤ちゃんが登場したり、猫ちゃんがカメラの前にやってきました。私はつつい飲みすぎてしまい、少し反省しています。少しですけど。

真面目な話、ZOOMは就職活動の面接にも使われます。ZOOM面接のコツはとにかく「笑顔」。表情ははっきり出した方がいいようです。そしてカメラセッティングも大事です。カメラの位置は目線よりも上に、そして斜め45度前方から光が当たるように工夫します。窓際などなかなかよろしいと思います。美肌モードを使うのもポイントの一つですね。

さて、この ZOOM ですが、友達との交流に使いましょう。時間を決めて交流会をやるのは実に簡単です。新入生の皆さんは、ZOOM のミーティングに集まって自己紹介して友達作りと人間関係作りをしていただければと思います。会えなくても仲良くなれる。なかなかいい時代ですね。新型コロナウイルスは困りますが。

なお、ZOOM はセキュリティに問題があるという報道があります。ZOOM を使うときは秘密の話はしない、パスワードを秘密にするなどの対策を取っ

遠隔授業サポートチーム・チーフ 林 信太郎

理数教育コース・教職実践専攻教員

てください。

写真：私。鳥海山を ZOOM のバーチャル背景にするとこうなります。



私は大阪生まれの大阪育ち。縁あってこの秋田で教鞭をとっております。秋田に来た時にはいろいろカルチャーショックを受けました。まず、風習が違います。秋田では大晦日にごちそうを食べるのですが、私は大晦日は年越しそば程度で、正月になったら御馳走が出るのが普通です。また、お雑煮です。各地で違うのはご存知でしょうか。大阪では白みそ仕立てで丸餅（焼かずに煮る）ですが、秋田は鶏出汁のすましで角餅（焼いたもの）です。元旦の雑煮は私が作るのですが、余り通販が盛んでなかったころは、年末白みそと丸餅を求めてスーパー巡りをしていました。白みその雑煮を食べないと、どうしても正月になった気がしないので。

勿論、言葉も、「んだ」「でかす」「なげる（捨てる）」など聞きなれない言葉が目白押し。中高年の方のはっきりしない発音も聞き取れない（今もですが）。でも、考えてみれば、大阪のことばも方言の一つ。例えば「ほんでな（それでね）」「ほる（捨てる）」「めばちこ（ものもらい）」など秋田の人にはわからない言葉が私の言葉です。

このような違いについて、私は“面白い”と思えました。面白いと思えるのは“違い”と認識できるからではないかと思います。どちらかが上だと思えば、見下すあるいは卑下することになります。自分の持っている文化について誇りを持っているけれど、他人の文化も同じように認めること。これが興味を広げてくれます。違いを楽しめれば、色んな事が面白く見えるかもしれません。

因みに、方言については国立国語研究所の日本語地図

https://www.ninjal.ac.jp/publication/catalogue/laj_map/の『日本言語地図』地図画像を見る

と楽しいですよ。また、大阪弁を楽しみたければ漫才よりも上方落語をお勧めします。特に桂米朝が良いです。ちなみに落語には上方落語と江戸落語（例えば古今亭志ん朝）があります。ついでに講談も面白いですよ。神田伯山なども是非聞いてみてください。



「閉じこもり生活」の過ごし方（後編）

「閉じこもり生活のアドバイス、宇宙飛行士から潜水艦艦長まで」のつづきです。次にアドバイスをくれたのは、原子力潜水艦の元艦長ビンセント・ラルノーディエッフエル氏。「閉じ込められた空間で仕事をやり遂げるには、自分なりの『使命』を見つけ、それに注力する。毎日やることを決め、しっかり守る。…（自分への）猶予期間だと思って、何かをやり遂げること」が大事だと言います。みなさんの今を前向きに捉えれば、季節は春、秋田大学に入った気持ちや理由をふり返り、何か新しいことに取り組むにはちょうど良い期間でしょう。

そんなちょっとした変化も大切なのかもしれません。海洋冒険家で、女性として初めて単独ヨット世界一周を果たしたイザベル・オティシエ氏は、「(自分に与えられた) その時間を使って新しいことをする。読書やいつもと違う音楽を聴く、日記を書く、写真を撮る、絵を始めること」など新しい挑戦を勧めています。一方で、何よりも大事なものは、先のことを考え過ぎないことで、オティシエ氏が海に出て独りで過ごす時間の長さ直面したとき、最初にしたのは「日数を数えるのをやめたこと」だそうです。心理学では「いま、ここ」が大切だと言います。

3人の閉じこもりプロフェッショナルのアドバイスをまとめると、「自分の日課を毎日守る」とことと、「自分にとっての新しい何かに挑戦する」ことが大切ようです。両者は一見反対のことに思えますが、実は、私たちが世界を視る際の対象と背景の関係に似ています。人間が対象やその変化を認識するには、同時に安定した背景が必要です。つまり、みなさんの今は変化に乏しい毎日ではなく、安定した生活のもとで自分のわずかな変化や

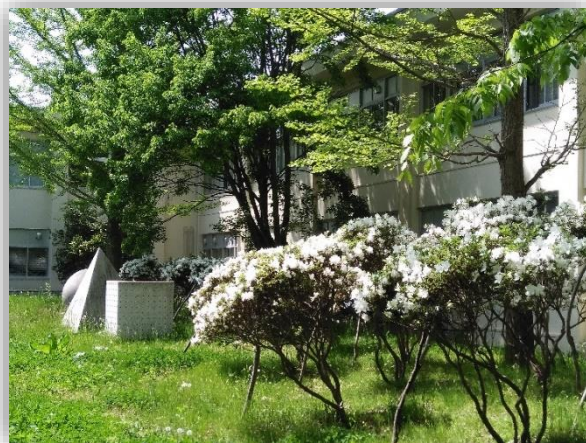
心理教育実践専攻長 中野 良樹

心理実践コース・心理教育実践専攻教員

成長にも気づける良い機会といえます。

この難局のなかでも、日々じわじわ成長するみなさんにお会いできる日を心待ちにしています。





時間の進み方は人それぞれ？

学部長補佐・教務学生委員長 林 正彦
理数教育コース教員

自宅待機が続いている中、みなさんの時間はどんなふうに流れているのでしょうか？

今、大学では、行き交う学生さんのざわめきもなく、まるで時間が止まったような中で桜の花だけがきれいに咲いています。時間の流れ方は歳を重ねる程、速く感じられるという話も聞きますが、最近のニュースで、『東京スカイツリーの展望台では時間が地表よりも1日に約10億分の4.26秒速く進むことを東大のグループが観測した』というのを知っていますか？ 時間計測技術の進歩を示す実験ですが、そもそもなぜ時間の進み方が高度によって違うのでしょうか？

実はこのことは、アインシュタインの一般相対性理論が約 100 年前に予言したことでした。原因は重力で、スカイツリー展望台よりも地球の中心に近い地表では、重力がより強いために時間の進み方が遅くなるのです。それでは、時間の流れをもっと遅くしたければどうすれば良いでしょうか？ 地球の中心にもっと近づく、つまり地中に潜る？ いいえ、潜ることによってわれわれの頭上に来る大地は、万有引力によってわれわれを地球の中心とは反対の方向に引っ張るのでこれはダメです。正解は「地球を圧縮して小さくする」です。そうすると、われわれは地球の重力の中心に近づき、新しい地表では時間は遅く流れるはずで、この圧縮を続けていくとどうなるのでしょうか？ ある半径まで圧縮すると時間の流れは止まってしまいます。この半径を「シュワルツシルト半径」と呼びます。地球の場合それは約 1cm です。人間が圧縮するのはとても無理そうですが、「ブラックホール」はそんな天体です。また、高度によって時間の進み方が違うという知識は、実は携帯やカーナビの GPS が正しく動作するためには必要で

す。

・・・こんな話で、ちょっとは気が紛れたでしょうか？（物理、嫌わないでネ） 葉桜になった頃、みなさんと『新しい授業』作りに挑戦するのを楽しみにしています。



温かい日課

モノトーンだった風景が春の陽光で元気に咲く花々で彩られていきます。さて、外出自粛により日課の大切さが謳われる中、皆さんは日課をどのように楽しんでいますか？

数ある日課の中で、私が朝一番に行くことは太陽にあいさつ!?することです。新たな気持ち芽生え、朝の太陽にはリセットの力があると確信します。なぜ太陽はからだと心を新たにするのか?科学的なことは別として、私にとっては温かさが理由です。朝の生まれたての太陽は、旅人の上着を脱がせたイソップ寓話の「北風と太陽」の強く照りつける太陽と違って、徐々に光を届け、徐々に温かさを感じさせます。温かい太陽が好きです。温かさには力があると思います。強制的ではなく、自主性が芽を出すのを大切に待ってくれるような、抑制された強さがあります。温かさを感じた時、人は本当の意味で動き始めると思います。

もう一つの日課は、朝日新聞の「折々のことば」を読むことです。今朝(4/23)のことばは、「強制的にさせられる努力は、もろいのです」(横尾忠則)。努力を楽しむという気持ちに加え、慈しむような温かさを感じれば、努力はさらに続くと思いました。

最後に夕食後の日課。ハーブティーを飲みます。タイム、セージ、レモンバーム、ハイビスカス、ローズヒップ等々、様々なブレンドを日によって選ぶのですが、2cm四方の持ち手の紙にひとつひとつ違うことば (Make a wish! Enjoy the moment! Learn to let go! Stay true to yourself! 等々) が書かれているブランドを愛用しています。それらのことばを日々の励ましと捉え、くつろぎます。

温かさによって、植物も人も安心して花を咲かせていくと感じます。この想定外の状況の中で、

学務委員長・国際交流委員長 佐々木 雅子

英語教育コース教員

温かさによって引き出し合う力を合わせれば、この難局を乗り越えていけると信じています。みなさんに直接再会できる日が一日でも早くなるよう、授業作りをすることも日課になっています。



この「コロナウィルス感染拡大防止」に努める状況で、私たちの「日常生活」はどのように成り立っているのか。いまは、このことを再発見・確認する良い機会です。

どうしても食料を調達するために、「三密」を避けつつ気をつけて食料品店に行けば、そこで売られている商品は、必ず誰かが作り、誰かが流通させているからそこにあるわけで、吉野源三郎さんが『君たちはどう生きるか』の冒頭から慎重に紹介する「生産関係」、アダム・スミスが『国富論』で示した時空間的に連関する「分業（者）」の身近な事例を観察できます。一方で、自宅と食料品店を往復する道すがら、あるいは公園などで気をつけながら一息つくとき、ふと周りを見渡せば、（他者がいなければなおさらですが、）人間以外の自然界は相変わらずに存在しています。いまはちょうど桜の盛りが過ぎるところでしょうか。人間たちが動き回らない分だけ、空気がより清浄で蟻などの昆虫たちや鳥たちは活動しやすいかも知れません。そこにはいつもと変わらない「日常」があるようです。

私たち、あるいは私自身の「日常生活」が上記のように、どれだけの人々に支えられ、どれだけ地域が関わっているかは、本当に今回の体験で分かります。「自分だけが」という発想では、自分もそれを支えてくれる「社会」も持続できない、ということを感じられるのではないのでしょうか。「巣ごもり」しつつも、「巣」は外側との関係が物理的にも精神的にも断たれては持続できないということで、皆が苦勞するわけですね。

現在、全国の大学教員が、従来の対面式授業になるべく代われる遠隔授業を（私は悪戦苦闘しながら）工夫して準備中です。準備しながら痛切に

感じるのは、大学授業も含めて、お互いに身近に
対して話ができる有り難さです。対面式授業だから
こそ簡単にできることが、遠隔授業ではできない
のです。(無論、逆もあります。) あらためて自
分の授業を思考実験的に「観察」してよく分かり
ました。

私自身の研究についていうならば、野外観察・聞き取り調査などの現地調査によるところが多いので、これから1年以上に及ぶかも知れない移動制限状況で、どのように研究を進めていくかが難題です。これまで集めた多くの研究地域資料をこの機会によく吟味・分析してまとめること、あるいはより広域の地域を対象とする地域統計分析などを試みるのが良いのでしょうか。



地域社会コース教員

話が大げさになりましたが、身近に考えるならば、私たちの日常生活は互いに助け合いながらも、自律性（あるいは自立性？）がなさ過ぎましたと思うのです。いかがでしょうか？ たとえば、身近に家庭菜園くらいなければ不安ですから、まずは野菜作りなどから、「日常生活」を変えていくのもよいかも知れません。「日常生活」に最

桜が散るとともに、いよいよ大学の授業も始まろうとしています。みなさん、履修登録は無事に終わったでしょうか。先日来、Zoomを使って学生さんとの面談を行ってきました（みなさんわりと元気そうでホッとしました）。こうしたデジタル機器には弱い人間ですが、おかげで何とか使うことができるようになりました。連休明けからはいよいよ

よ授業が始まります。あと少しの辛抱。元気な皆さんと授業でお会いすることを楽しみにしています。



東北医科薬科大学医学部感染症学教室「(新型コロナウイルス感染症市民向け感染予防ハンドブック [第1版]) 2020/02/25 (参照 2020/04/26)

http://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp/manager/wp-content/uploads/2020/02/%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E3%82%A6%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E6%84%9F%E6%9F%93%E7%97%87%E5%B8%82%E6%B0%91%E5%90%91%E3%81%91%E3%83%8F%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF_20200225.pdf (クリックしてね)



私は乳幼児期の子どもの発達を研究しています。最近では附属幼稚園に行き、子どもと遊びながら（私が遊んでもらいながら？）、子どもが世界をどんな風に捉えたり、考えたりしているのかについて研究しています。

タイトルの「ねえ、人間？」は、今までで一番忘れられない子どもからの質問です。子どもからいろいろ聞かれることは多いのですが、さすがに「人間？」と聞かれたことはありませんでした。とっさに言葉が出てこなくて、不覚にもごく普通に「う、うん」と応えてしまいました。彼は「ふーん」と一言。内心、えっ、それでいいの？と思ったのですが、その後に続いた彼の言葉は、「ねえ、昔は外国人？」。え？え？とまた動揺してしまい、「うーん、ずっと日本人かなあ」とまた普通に答えてしまったのです。彼は、また「ふーん」。そんな動揺している私に彼はさらに「ねえ、おねえさん？おばちゃん？」…私がそれを決めてもいいの？とか、年齢的にはおばちゃんだけど、せっかくだからおねえさんかなあと考えていると、「ねえ、誰のお母さん？何組の先生？」と…。

彼は3歳児ですが、「人間」という言葉を3歳児が使うことは珍しいかもしれません。単語としてあまり出てはきません。もしかすると彼が想像世界で何か考えているところに、私が登場したのかもしれませんが。あるいは、素朴に何かを感じて（何かはわかりませんが）思ったことを声にしていたのかもしれません。4歳児だとかいう質問に「どうして？」が加わるかもしれません。5歳児になると相手や状況に応じた「会話」が少しずつ増えてきます。

子どもが何かを理解していく、ということは
様々なことに疑問をもち、かかわりの中で様々な

ことを学んでいくことです。このような質問も、おそらく幼稚園という彼にとって落ち着く空間で出会えたからこそ生まれてきます。私がその場において、幼稚園の先生とお話している様子や、他の子どもとのかかわりを見ているからこそ、彼もまた、私に何らかの興味を示してくれたのかもしれない。

かかわりが限定されている今、改めて子どもの発達におけるかかわりの重要性を感じずにはいられません。



授業が始まれば、レポートを書いたり、そのた

ではみなさん、授業でお会いしましょう。



始点と終点について

教育文化学部長 佐藤修司

私が東京から秋田に来たのは 1995 年の 4 月、学部の中で最年少に近かったのですが、今や最も長く学部にいる範疇に入りました。

ここ 5 年ほどで、若い頃に比べて時間の進み方が早く感じるようになりました。考えるに、定年退職だけみても、若い人にとって、そこまで 40 年以上あるわけですから、1 年の価値は 40 分の 1 程度、それに対して、残り 10 年程度になった人にとっての 1 年の価値は 10 分の 1 以上になります。遠かったはずのゴールは、いつのまにかすぐ近くに、容赦なく迫ってきます。

逆に、私が 20 代の頃は、10 代の頃に比べて、時間の流れがゆっくりになっている気がしていました。10 代の頃は、毎年やるべきことが多くあり、めまぐるしいのに対して、段々と変化が少なくなってくることもあるでしょう。生きてきた期間が 20 年以上と長くなることで、その 1 年の重みが 20 分の 1 へと減少していくことも関係するかもしれません。

加えて、先行きが見えずに不安であり、理不尽な状況に耐えるしかないと思っていると、余計に長く感じることも確かです。いつまでこの状態が続くんだと、文句も言いたくなります。無力感と孤立感、これを乗り越えて、自分なりにできること、つながれることを探すことも必要です。

何でもできるわけではありません。若いときには十分な時間があって、順調なときは何でもできるように感じたりします。しかし、歳を重ねると、

できることは限られていることを知ります。そのことをマイナスにとらえるのではなく、それが人生だし、それが人間だし、自分なりによくやったんだと思うことが重要です。

要は、時間の流れの感じ方が、早い時期から遅い時期を経て、また早い時期へと移り変わっていく、それは意識が始点から終点へと変化するからなのでしょう。マラソンなども同じですね。みなさんにとって、学生時代が貴重な時間として刻まれるようにいつも応援しています。



* 冬来たりなば春遠からじ、でも冬があるから春の喜びは大きくなります。明けない夜はない、夜明け前は一番暗い、でも夜が深いほど朝の爽やかさは際立ちます。冬には雪や氷の美しさと楽しさを、夜には月や星の輝きととしびの暖かさを感じることができます。春や朝を待つだけでなく、冬や夜をいとおしむ余裕を持ちたいところです。

発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910 年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。